

患話休題

かんわきゅうだい

30

院長
真崎 雅和

「じかん」に気を付けて!

風邪をひきやすい季節となりました。鼻水、喉の痛みなど一般的な風邪症状に加え、耳の詰まり(耳閉感)を感じて耳鼻科を受診される方もいらつしやいます。この耳閉感は一休どのようにして生じるのでしょうか?

鼓膜の奥には中耳腔^{ちゅうじやくう}という空気の入った部屋があります。中耳腔は鼻の奥と管でつながっており、この管を耳管^{みみび}といいます。耳管は普段は閉じていますが、唾^{つば}を飲み込んだり、あくびをした時に一瞬開いて中耳腔の換気を行い、中耳腔と鼓膜の外側の外気圧との気圧差を解消する働きを持っています。

中耳腔の換気がうまくいかなくなると中耳腔の気圧が下がり、鼓膜は内側にへこみます。逆に、鼻を強くかんで中耳腔に空気が入り過ぎると中耳腔の気圧が上がリ、鼓膜は外側に膨らみます。このように、中耳腔と外気圧の気圧差が生じると鼓膜は内側にへこんだり外側に膨らんだりするため、耳閉感を感じるようになります。飛行機に乗った時や高層ビルのエレベーターでも急激な外気圧の変化が起こるために耳閉感を感じる場合がありますが、唾を飲むことで耳閉感が消えるのは、耳管を開いて中耳腔の換気を行い、気圧差を解消しているからです。



風邪や花粉症など鼻に炎症が起こると鼻水が増えてくると、耳管の鼻側の部分の粘膜が腫れたら、鼻水のせいで耳管が開きにくくなり、中耳腔の換気が十分に行われなくなりまます。すると、外気圧と中耳腔との気圧差が解消されず耳閉感が続き、さらに鼓膜の動きも悪くなるため、聞こえにくい、音がかもつて聞こえるなどの症状も出てきます。中耳腔の換気がうまくいかない状態が続くと、中耳炎へと進行してしまうこともあります。子供が風邪をひいた時に中耳炎になりやすいのは、大人に比べて耳管の働きが未熟なことも一因です。

飛行機に乗るといつも耳閉感や耳の痛みが出る方や、鼻の調子が悪い時に飛行機に乗る方は、意識的に唾を飲み込んだり、あくびをして、できるだけ中耳腔の換気を行うようにしてください。特に高度が下がっていく時に症状が出やすいため、着陸態勢に入った時にあめをなめたりガムを噛むこともお勧めの方法です。

診療時間が近づいたことをお知らせする

約
30分前
メール
サービス

ご利用ください。
ご希望の方はメールアドレスを受付へ!!



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

 真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321
秋田市土崎港中央6-8-3